

地域ケア会議から必要と思われること

## 今年度のテーマ

---

**「单身もしくは、家族介護が期待できない人  
(事実上、家族支援が受けにくい人)が  
地域・在宅で暮らせる方法」**

### 頼れる人がいない高齢者の暮らしって？

- 体調変化に気が付きにくい
- 頼れる人がいないことにより不安・負担が増大
- 知らないことにより選択できない、意思表示が示せないことがある
- 本人の意図とは異なる支援や治療内容になることが発生しやすい
- 孤独死のおそれがある

## こんなことが必要????

- ① 年を重ねる上で将来の準備として知っておくと良い制度、サービスの周知
- ② ポジティブな老いについて学ぶ・考える・話す機会
- ③ アプローチが必要な各世代に向け、将来の暮らし方を考えることができる、参加したいと思うプログラムの実施
- ④ 高齢者の働きやすい就労先、就労形態の探索  
金銭面だけでなく役割や居場所ができ、支援や見守りにつながる。
- ⑤ 情報弱者にも届く、既存資源や相談先の周知
- ⑥ 必要な地域資源や情報を収集できる仕組み

## あったらいいな

- ① 生き方を考える機会
- ② 退職後などに通える学びの場
- ③ 将来に備えるためフローチャートや認知症ケアパスのような考えるツール
- ④ 能力や特技を生かした活動、就労の場
- ⑤ 情報弱者を作らないための多様な発信方法

## まとめ

すべてのことを公的サービスだけで生活を支えられない。

- ・制度外も含めお互いが少し守備範囲を広げ、工夫することが大切。
- ・自らが対応するだけでなく、対応できないことや見つけた課題を共有し、何ができるかを考え資源化する仕組みづくりも大切。

高齢者が安心して暮らしつづけられる地域づくりを目指し、多機関と地域が協働して暮らせる仕組みを皆さんと一緒に考えていきたい。



その為には**自助・互助・共助・公助**の視点を基に共生社会に向けての発信を行政と専門職が共に同じ方向で進めていくことが重要と考えます。